

2013年(平成25)7月

カルメル 靈性センターニュース



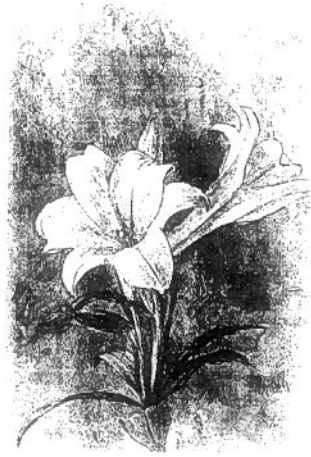
2013年7月

289号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	35
年間購読(郵送)のご案内	46
編集後記	47

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第二卷



内的生活のための勧めはここにはじまる

第一章 内的なまじわり

1 内的なこと

「神の国はあなたたちのなかにある」(ルカ 17・21)と主は言われる。心を神に向け、みじめなこの世を離れなさい。そうすればあなたの靈魂は平安を見いだすであろう。外部のことを軽んじて、霊的なことに従うことを学びなさい。そうすれば神の国があなたに下るのを見るであろう。「実に神の国は、聖霊における平和と喜びである」(コリマ 14・17)。それは悪人たちに与えられるものではない。もし、あなたが心のなかに主のためにふさわしい住まいを準備するなら、キリストはそこに来て、すべての慰めをあなたに味わわせるであろう。イエス・キリストの光栄と美とは内部からのものであり、また内部において喜ばれるものである。神は内的な人を訪れ、その人に優しく話しかけ、甘美な慰めと深い平和とを与え、驚くべき親しさを示される。

信仰年に

神と親しく生きるために - 7 -

信仰年にあたって、「信仰の創始者また完成者」(ヘブライ12・2)であるイエス・キリストに目を注ぎましょう。愛のよろこび、悲惨な苦しみと痛みへの答え、人から受けた侮辱を赦す力、そして、死の空虚に対するいのちの勝利——人の心のあらゆる不安とあこがれは、この方のうちに満たされます。

～教皇ベネディクト16世『信仰の門』13～



ザアカイがイエスを見ようと登ったイチジク桑の木の花

わたしたちは様々な事柄に振り回され、どうしようもなく自分自身の深みで求めているものから切り離されてしまいます。ときには闇がわたしのの上に鉛のように重く覆いかぶさってきます。そのようなことをすべて越えて、自分の深みに入りたいのに。

「イエスを一目見ようと探す」ザアカイのように神に立ち返りたい。わたしは自分の存在の深奥で愛を再び見出したい。

それには時としてわたしを面食らわせ、不条理としか思えないこの地上の生活で、「今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」ルカ19・1-10と言われるイエスを受け入れねばなりません。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

チョコソウ？

くのり 彰

チョコソウというと、新鮮な野菜や果物の「産地直送」という言葉が思い浮かぶ。先日、電車の中で、次のような広告を見た。

こんな送り方もあります。

火葬のみを行うシンプルな送り方、直葬

直葬 親族葬 家族葬

15万 128万 47万

何となくシンプルに行なう結婚式のようなイメージだが、要するに死んだら、火葬場に直行し、すばやく遺体を焼いて、骨と灰にしてしまおうという魂胆である。

お坊さんも牧師や神父も現れず、それゆえ葬儀もないので、式の準備も謝礼も必要なし。また参列者もないので香典返しも不要、15万円で安上がり。「お得ですよ!」、というところであろう。私も頼みたくなるような金額である。だが、親族葬128万、家族葬47万という数字はどこからはじきだされるのだろうか。また直葬の15万の中身は何か。死亡届、埋葬許可証などとすれば、15万でも高いのではないか。

それにしても、火葬場に直送。家族も親族も友人も呼ばず（もちろんいない場合は、呼ぶこともできないが）、簡単な儀礼で炉の中に放り込まれるわけである。私には、粗大ごみの焼却炉や、アウシュヴィッツのクレマトリウムが連想される。

天国に直送してくれるのであればありがたいのだが、宗教抜きのチョコソウでは、どこへ送られるのやら……。

言うまでもなく、死者は物ではなく、人間である。生前の故人を思い、家族友人と共にその死を悼み、とむらい、墓におさめる行為は、人間の人間たる所以であろう。その意味では、来世を信じない現代人の現世中心主義が、手早く遺体を処理するチョコソウを生み出したとも言える。あくまでも、今生きている者の都合で、死者を取り扱っている。葬儀を豪華にするのも簡素にするのも、死者のためではなく、自分のため。こんな送り方をすれば、死者が化けて出てくるのではないか。

年間第14主日 (C)

みことばのひびき

(ルカ 10:1-12, 17-20)

「どこかの家に入ったなら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。」

本日の福音には、イエスが献身的な72人を集め、神の愛を伝え、怪我人の手当てをし、困難な世の中で平和をもたらす人になるために二人ずつ遣わしたと記されています。普通のこの人たちにはりっぱな計画もなく、定められた話もなく、何をすべきかを示す訓練用のマニュアルも持っていませんでした。彼らはイエスへの信仰、信頼、経験を持っていただけでした。彼らはまさにイエスといっしょに生活し、イエスを経験していたのです。イエスもまた、彼らが間違いをするだろうと分っていました。それにもかかわらず、イエスは彼らと呼び、ミッションを与え、また、治療し矯正し命を取り戻すためのイエスの権威を与えました。今日、洗礼を受けた人は皆イエスのミッションの召し出し、他者に対する司祭職を理解しています。イエスはそれぞれの人がミッションに対して準備し、荷物を置き、イエスの呼びかけに合わせて心から喜んで出発するように呼ばれます。これらの72人と同様に、私たちが神の国は近づいていることを宣べ伝えるように呼ばれていますし、このことは私たちの生活を通して宣べ伝えていかなければならないことです。

本日の三つの朗読のなかで繰り返される一つの言葉は、「平和」です。平和とは単に戦争がないとか、相手との間に力のバランスを保っているということではありません。それは秩序の平穏さであり、正義の結果であり、思いやりの結果です。イザヤは、第一朗読で、神は「川のように流れる平和」を送ると語っています。パウロは、イエス・キリストにおいて変えられた全ての人にもたらされる平和と憐れみについて語っています。福音では、イエスは狼の群れの中に子羊を送り込むように弟子たちを送り、平和を宣べ伝え、入った全ての家に平和をもたらすようにと告げています。この平和は外的状況によりません。私たちが嵐に囲まれているときでも存在し得るのです。イエスが園において祈ったあと経験された平和です。イエスが十字架で苦しみの中に経験された平和です。パウロが、「私たちの主イエス・キリストの十字架」にあやかり、自分の体にイエスの苦難の印を持ちながらも経験する平和です。ですから、私たちキリスト者としての仕事は、平和をもたらす者となることです。イエスにぴったり従っていくことがもたらす平和です。私たちの生活を変え、私たちが他者の役にたつ者にする平和です。最後に平和は神のご意志の一つになります。

福音と他の朗読箇所は、私たちが王国を宣べ伝える仕事を持ち、私たちの世界に神の統治をもたらすことができると告げています。私たちは神の家族の部分となり、想像し得るあらゆる障害を越えて神の子どもたちに手を差し伸べていく責任があります。イエスは、単に過去におこなったことではなく、王国の部分となることによって救いを遂げることを私たちが喜ぶように望まれます。平和を私たちの挨拶、証明にしましょう。平和は神の王国の現存の印です。平和が私たちの心の中に、私たちの家庭の中に、今日も又毎日、ありますように。

(Sr. Paulina)

「行って、あなたも同じようにしなさい」(路 10, 37)。

これは、イエスが下した今日の福音の結論です。一人のサマリア人が半死半生で横たわっているユダヤ人にしたように、あなたも行って、敵対関係にある人にも厚い手当をしなさい。「しなさい」、もし、これが、一人歩きした掟のように取られるならば、大きな誤解に導くことにもなりかねません。イエスは、この結論に達する前に、善いサマリア人のたとえを話されました。そして、わたしたちが、善いサマリア人と自分を重ねる前に、半死半生の旅人の立場に身を置いてみることを、また、その自分に善いサマリア人がしてくださった行動を、その時、自分の心の中におこっていた気持ちを想像してみることを、求められているのではないのでしょうか。きっと、このとき癒されていたのは、その旅人の体の傷以上に、心の傷ではなかったか、と思うのですが。縁もゆかりもない自分のためにこんなにまで無私無欲に尽くしてくれる人がいる、ここまで人間はできるのだ。自分のことだけを考えているのではなく、隣人のために何ができるか考えることができるのだ。もし、体の傷が癒され、命が助けられたことをありがたがる時点で止まってしまえば、ここで「救われた、得をした」の感情に留まってしまっているなら、わたしたちは、イエスがこのたとえを話された意図を把握していないと言わなければならないでしょう。

この善いサマリア人が、イエスを、また、イエスを通して父である神を象徴していることは確かです。「旅をしていたサマリア人は、・・・その人を見て憐れに思い」とありますが、「憐れに思う」、これは、現実の人間には自然的には備わってはいないものなのかもしれません。神、あるいはイエスによってこの愛を注がれ、罪に傷が癒され、新しい人間に造り変えられて行く過程で、わたしたちの中に生み出されてくる可能性なのです。わたしたちにできることは、神によって形造られるままになっていること、神の愛が、わたしたちの命の上に身を屈め、ご自分の憐れみ深い愛の透明な像とするまで働いていることを、信じ身をゆだねることです。このとき「行って、あなたも同じようにしなさい」とのイエスのお言葉は、真実な福音として体験できるでしょう。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです」(1ヨハネ 4, 10-11)。

ルカ渡辺幹夫

年 間 第 16 主 日 (C)

“マリアは良い方を選んだ” (ルカ 10 : 38—42)

福音はイエスの足もとに座って、その話に関心入っているマリアを描きます。マリアは心と魂の全てを傾けてイエスに聴いています。これは真の愛の行いであり、易しいことではありません。多くの場合、私たちは話し手の話をよく聴こうとはせず、聴いても自分に関心あることだけを選んでしまいます。このマリアに対して姉妹のマルタはイエスを大切にもてなしたい思いいっぱいであわただしく働いています。このマルタに、イエスは静かに、やさしく気付かせてくださいます。マルタが余りにも多くのことに心を煩わせ、思い悩んでいることを。マルタの働きが悪いのではなく、働くことに夢中になり過ぎ心が奪われている状態に気付かせてくださったのです。私たちが日常生活でよく陥ってしまうことです。必要なことはただ一つしかありません。マリアはそれを選びました。

マリアとマルタの話は訪れる客人を手厚くもてなすことの大切さと、全ての客人のうちに神がおられることを示しています。これは偶々マリアが主である神、イエスの傍らに座りその語られることに耳を傾けているときのことを記していますが、別のときに、マリアは働くことによって神のお望みを果して主に仕えるでしょう。イエスがこの姉妹たちに望まれることは、行き過ぎのない中庸のある態度で、自由に、他者に対する思い遣りの心ある生活を生きたることです。私たちの生活に必要なものはただ一つ、“愛”であり、この愛を日々の行いと深い祈りのうちに生きるようにと教えてください。周りの兄弟姉妹を大切にしないと、いつの間にか、どうでもよいことの中で身動きが取れなくなってしまうかもしれません。

福音は、主の足もとに座ることは主の語られることに耳を傾けることであると教えています。主のお言葉と私たちの間には、習慣も境も決まりも全くありません。このマリアとマルタの話が好き福音記者ルカはイエスの祭司職と教会における女性の役割を強調しているようです。実際には、主の足もとに座ることの妨げとなるものは何一つありません：習慣も伝統も規範も決まりも性別も。イエスはキリスト者の生活のもう一つの次元である神と人との直接の人格的な交わりを指し示し、これこそ最も大切で大事にすべきことであると仰せになります。ですから今日の福音のマリアはイエスの語られる神のことばに聴き入り、“良い方を選んだ”のです。注意深く神のことばを聴くものだけが神がお望みになるように振舞うことが出来ます。神に深く聴き入ることによって周りの人々の幸せを願う心と、神が人を創造してくださったこと全体への感謝の思いが流れ出ます。ここにイエスの母マリアの素晴らしい模範が与えられています。マリアは全てのことを心に納め思い巡らしておられました。

(Sr. Paulina)

「主よ、わたしたちにも祈りを教えてください」（路 11, 1）。

上述の聖句の前に、「イエスはあるところで祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人が」と書かれています。古今東西、人間が生きるところには、どこにでも、「祈り」と名づけられる心の構えが芽生えていることを、わたしたちはよく知っています。そして、イスラエルの民が、賛美、感謝、懇願、改悛の心で父である神に祈る長い伝統に養われた民であったことも。しかし、弟子たちは、イエスの祈る姿を目にして、他の誰にもない特異的なものを、印象深く心に焼き付けられていたのです。「ルカによる福音」の特色の一つは、御父に祈るイエスの姿に特に焦点をあてていることです。イエスの生涯は、御父との絶えることのない出会い、命の交流であった、そして、その流れが、あるとき凝縮して、祈りの行為や言葉になった、と言うべきでしょう。弟子は、「祈りを教えてください」とイエスに願っていますが、実は、祈りの文句を超えて、イエスの祈りに参加したい、イエスが生きておられる御父との特別な親密な交わりの秘密を知りたいとの願いであったと、言ってよいのです。

「そこで、イエスは言われた。『祈るときは、こう言いなさい』」。イエスが教える祈りの言葉は、イエスの生き方、生きる姿勢の根底に流れる命の秘密が現れてくる窓口です。まず、「父よ」との呼びかけで始まります。祈りは、対話です。つまり、人間の命も対話です。イエスの一生は、父への思いに始まり（参照路 2, 49）、また、十字架の上での父への委託の言葉で終わります（参照路 23, 46）。そして、節目節目に父への祈りが現れています（参照路 6, 12; 9, 18. 28; 22, 42）、それは、御父との関わりなしには自分がないことを確認するときです。「すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに、子がどういうものであるかを知るものではなく、父がどういう方であるかを知る者は、子と、子が示そうと思うもののほかに、だれもいません」（路 10, 22）。わたしたちにとって祈るとは、イエスのこの父へ交わりに参与させていただくことです。イエスの御父への思いは、まず二つの願いに現れます。「御名が崇められますように」、「御国が来ますように」。最後に、ある意味でわたしたちがもっとも切実に感じている懇願、必要な日ごとの糧、罪の赦し、誘惑からの保護が続きます。最後の三つの懇願は、これらだけが一人歩きするならイエスの思いからは離れるでしょう。しかし、先の二つの願いに包まれているなら、イエスから離れさせるところか、より深く一致させてくれるのです。 ルカ 渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (71)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

悪い長上？

このタイトルはいろいろな質問を引き起こすかもしれません。でも、とにかく、十字架のヨハネ修士にふりかかってきた事柄を取り扱っています。

聖人はカラバカへ戻ろうとした時に、ベアスに立ち寄りました。

教区の教会では、一人のフランシスコ会士が説教をしていました。その教会には、カルメル会の修道女たちも通っていました。修道女たちは側廊上の二階席から説教を聞いていました。ヨハネ修士は、一信徒のように教会の人々と一緒にいました。

説教者は興奮して、修道女たちに向かって、こう言いました。

「姉妹たちよ、悩まないように。そして苦しまないように。今日、皆さんは悪い長上（訳注：男性形）を持っているとしても、別の日にはそうではない長上を持つことになるでしょうから」。

修道女たちは、どう反応したらよいのか分かりませんでした。これに対し、「ヨハネ修士は、そのひどい当てこすりを聞きながらも、おだやかに微笑み、後で、修道女たちに、その説教者が指摘した良い点を慎重に取り上げつつ、講話をしました」。

聖人とはこのようなもので、彼らの態度を変えることのできる人はだれもいないでしょう。



雨もよいの日暮れ、いつものように郵便受けをみると、デパートのダイレクタメールや雑多な紙類にまぎって、小学校の担任の先生の訃報がありました。

「兄さん先生」が亡くなった。何ということ。一瞬、強く胸中を揺さぶられ立ちすくみました。

ずいぶん長いことお会いしていなかったのに、最後にお会いしたのはいつだっただろう。しかし、不思議なことに脳裏いっぱい浮かんできたのは、65年も前の若々しい青年のお顔であり、凜とした雰囲気のお姿でした。

昭和18年国民学校入学の私たちの時代は、戦争とそれに続く終戦の混乱のさ中でした。今もし心の扉を開けようものなら、溢れる出来事、溢れる思いがどっとこぼれ出して、収めることができなくなるでしょう。日本中の誰もが戦争、そして敗戦の悲惨に翻弄され、なすすべもなく人生を歪められ、心身に深手を負いすさんでいました。とりわけ幼い子どもたちは、大人のそうした苦悩をさまざまにまともに受けとめざるを得なかったのです。

生徒たちの前で、教育の誤りを泣きながら謝罪する若い女性教師に、皆でかけ寄って涙したり、赤狩りとかレッドページといった言葉を、確かな意味もわからないままにささやき合ったりしていました。

私自身は父の遠隔地への出向や、家族を離れて祖父母のもとへの学童縁故疎開、度重なる転校転校と、小学校時代の記憶は何ひとつ定まらず、むしろ心の闇と化しているかのようです。

4年生になってやっと落ち着いた学校で、5年生6年生の2年間を「兄さん先生」に受け持たれて、私にとってはこの2年間だけが小学校のすべてと云っていいのです。

担任の先生を「兄さん先生」と呼ぶのには心嬉しいわけがあります。

今、私は赤い表紙の小さなサイン帖を手にしてあります。質素というより粗悪な紙質で、現在の豊かさから見ればむしろレトロ的価値があるのかもしれませんが、安っぽさは否めません。それでも Memory と金色のデザイン文字が四つ葉のクローバーとともに描かれていて、少女らしいなりかたちも感じられ、遠い日の少女の自分が立ち上がってくるようで、甘やかな気持ちにもなります。

私たち生徒は卒業式が近づくと、職員室の先生方を訪ねてまわり、サイン帖に贈る言葉を書きいただきました。私のこのノートには15人の先生の言葉

とサインがあります。 ボールペンもサインペンもない時代なので、どの先生も万年筆と筆書きで、なぜか大変達筆です。 こうして眺めているとその時のお一人おひとりのお顔、お声、お人柄、頭に置いてくださった優しい手の感触全てが有りありとよみがえってきます。 そして、担任の先生は、他の先生方より長文で、二頁にわたって贈る言葉を書いてくださいました。

あなたへの先生の思い出は数限りなくありますと書き出され、先生と私という一対一の関わりを示してくださっています。 今思うとき、私にとって先生は人格関係を意識した最初の大人だったのではないのでしょうか。 真心をもって関わり合うというそのことに、深い影響をうけたと思っています。

サイン帖の文字はこども向けというのではなく、大人の人の筆使いであり、その上美しい達筆でとても読めないで、母に読んで貰い一字一句を心に刻みました。 一人の個人として認め、肯定し、慈しんでくださる言葉に、私はおぼろ気ではあっても心の向かうところを示唆されたように思い、ここを生きていくのだと幼いながらの志をもったのかもしれない。 それは確かに今の私につながるものであるのです。 言葉の最後は、時には学校にいる兄さんのことも思い出してくださいと結ばれていて、驚きに満ちたよろこびに打たれ胸がはずみました。

先生は、ここで私の「兄さん先生」になったのです。 「兄さん先生」からの贈る言葉は65年経った今でも全部空で言うことができます。

「兄さん先生」の訃報は、65年前のことだけでなく、その前のこともその後のことも、流れる映像をみるようにして次々と思い出を呼び起こし、思いがけず生涯を顧みることになりました。 私の人生、歴史、それはとりもなおさず私の魂の救済の歴史であるのです。 いつもどの時も神は共にあり、守り支え導いておられることが実感として強く迫り、そのことに今、誰よりも私自身が息をつめるほどにびっくりしています。 そしてまた私の生涯は、いかなる中にあってもイスラエルは私なのだという、濃密な遥かなもうひとつの時の流れの内に、常にしっかりと抱かれていることをも今日、また新しく知るので。

懐かしい「兄さん先生」またお会いするその日まで、ずっと私の「兄さん先生」でいてください。

いのちの言葉 7月

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

(ガラテヤの信徒への手紙 5・14)

これは使徒パウロの短くてすばらしく、簡潔で明快な言葉です。

この言葉は、キリスト者の行動の基盤はどこにあり、常に考えの源となるべきものは何かを伝えています。それは隣人への愛です。

この掟を実行するなら、律法を全うすることになるとパウロは考えています。姦淫するな、殺すな、盗むな、人のものを欲するな、と律法は命じていますが、愛する人は当然そのようなことはしないでしょ。愛する人は殺さず、盗みません。

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

ただし愛する人は、悪を避けるだけではありません。愛する人は、他の人々に心を開き、善を望んでそれを行動に移し、自分自身を与えます。そして愛する相手に命を与えるまでに至ります。

それゆえ隣人を愛するとは、ただ律法を守ることにとどまらず、それにより律法が「全うされる」とパウロは記しています。

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

隣人愛の内に律法全体があるなら、他の掟は、日々の複雑な状況にあっても人々を愛する道を見出せるよう、私たちを照らし導く手段とみなすべきでしょう。私たちは、神が他の掟の中で何を意図され、望んでおられるのかを、読み取る必要があります。

神は、私たちが従順で、清くあり、節制すること、柔和で、憐れみ深く、貧しくあることを望んでおられますが、それも愛の掟をよりよく実行するためです。

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

ここで、なぜ使徒パウロは神への愛について触れないのか、と思われるかもしれませんが。

神への愛と隣人への愛は対立するものでなく、むしろ隣人への愛は、神への愛を表現するものだからです。神を愛するとは、神のみ旨を果たすことであり、神のみ旨は私たちが隣人を愛することです。

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

今月のみ言葉を、どのように実行できるでしょうか。

それは明らかです。隣人を愛すること、真実の愛で隣人を愛することです。

これは与えること、何の見返りも求めずに隣人に与えることを意味します。

自分の意図のために隣人を利用するなら、それは愛ではありません。自らの成聖といった霊的な理由でも、同様です。私たちは自分自身ではなく、隣人を愛する必要があるからです。

一方で、このように愛する人は、確実に成聖に至り、「御父のように完全」になるでしょう。自分にできる最善のこと、つまり、神のみ旨を中心に置き、それを実行したからです。その人は、律法を全うしたと言えるでしょう。

人生の終わりに私たちが問われるのは、ただ一つ、この愛を生きたかどうか、だけではないでしょうか。

キアラ・ルービック

*今月の言葉は1983年6月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

み言葉を生きて

私の経験は、まず家でお手伝いをたくさんしていることです。

小さい時は、あまりやりたくなかったけれど、大きくなって、お手伝いが家での私の仕事だということに気づきました。弟や妹はあまりやらなくて、おこってしまう時があるけれど、自分も同じことをしてきたので、わかってあげることが大切だということも教えてもらいました。

もうひとつは、三学期から転校してきた友だちのことです。

その子は、教室でとてもさびしそうにしていました。同じマンションの子だったので、何かしてやりたいと思いました。帰るとき先生に「いっしょに帰って下さい」と言われたので、いっしょに帰りました。最初は、ドキドキしていたけれど、神さまに勇気もらって、話しかけてみました。そうしたら、今は、友だちになりました。

私は、何でも相手の立場に立ってやるのが、大切だということを知りました。(S)

●お知らせ

マリアポリ

7月13日(土)～7月15日(月・祝) 東照館(山梨県南都留郡山中湖村平野 210)

*詳細は各フォローセンターまで。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（167）



私たちが語っている真実へと成長していくこと

私たちが語っていることを十全に生きているならば、ただ話すだけで終わるでしょうか。口にするすべての言葉がすべての行動に実現されていなければならないとすれば、私たちは永遠に沈黙しなくてはならないでしょう。私たちは時折、神の愛を、まだ十全に生きることができない時にさえ、告げ知らせるように招かれています。それは、私たちが偽善者であるということなのでしょう。私たち自身の言葉がもはや人々に回心を呼び起こさない時でさえ。だれも自分自身の理想や思い描いているものを完全には実現していないのです。けれども、私たちの理想や思い描いているものを、大きな確信と大きな謙遜をもって告げ知らせることによって、私たちは徐々に、自分が語っている真実へと成長していくのです。私たちの生活自体が、いつも言葉以上に大きな声で語っていることに気づいている限り、私たちの言葉は謙遜なものにとどまり続けると確信することができます。

(0621)

私たちの気質を神へ奉仕させること

私たちの気質——活発であれ、冷静であれ、内向的であれ、外向的であれ——は、私たちの人格の中で、まったく取り替えることのできない備品のようものです。けれども、毎日の生活において、それらの「使い方」は、大きく変わりうるのです。私たちの内におられる神の霊に注意深くあるならば、私たちは徐々に、それらを有徳な奉仕へと変えていくことを学んでいくことでしょう。その時、活発な人は、神の国のために大きな熱心さを表し、冷静な人は危機の時にバランスを保つ助けとなり、内向的な人は観想的側面を深め、外向的な人は創造的使徒職を活気づけることでしょう。

私たちの霊的生活を深めるために助けとなる恵みとして、私たちの気質を生きて行きましょう。

(0728)

(九里 彰訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

跣足カルメル修道会と履足カルメル修道会の両総長顧問会の会議から 全カルメルファミリーへのメッセージ

エイルズフォード発、イギリス (2013年5月31日)

この“信仰年”に、跣足カルメル修道会と履足カルメル修道会の二つの総長顧問会は、イギリスのエイルズフォードに巡礼いたしました。この地は、全カルメルファミリーにとって重要な場所です。実際、聖シモン・ストックの祝日にこのメッセージを書いているこの場所に、1242年にカルメル山から移住してきた隠遁者たちが建てた古い修道院の遺跡があります。

彼らの聖地からヨーロッパへの帰還、それまでの隠遁的生活から托鉢的生活へのゆるやかな移行、彼らの神体験、そして何よりも、文化的危機に遭遇した時代における聖母への謙遜な兄弟的信頼は、私たち全員にとって霊的なインスピレーションの源となりました。それらはまた、私たちに”今日の世界での私たちの使命を再考する”ひとときを与えてくれました。ワーキングセッションの大半は、この課題にあてられ、そこでは、コンボーニ宣教会のベニト・デ・マルキ神父が指導してくださいました。

エイルズフォードで私たちは、履足カルメル修道会の共同体のゲストとして、温かく親切な歓迎を受けたことを、心より感謝申し上げます。祈りと兄弟的な交わりと黙想の時を過しながら、二つのエキュメニカルな出来事を体験いたしました。その一つは、604年に建てられたロチェスターにある古代のカテドラルで、イギリス国教会の兄弟たちと共に、日曜日の前晩の祈りを献げたことです。二つ目はカンタベリーの名誉大主教で、明敏な神学者であり、カルメルの霊性と聖人に関して著名な専門家である、ロワン・ウィリアムズ大主教とのケンブリッジでの会合でした。

祈りと神学的考察というこれらの二つの出会いに助けられて、私たちは、今日の宣教が、他のキリスト教グループとの親しい協力関係の内に、エキュメニカルな開かれた心で展開されるべきであることを了解いたしました。

今回のヨーロッパのカルメル会発祥地への巡礼によって、私たちは、グローバリゼーション、あらゆる方面の流動性、私たちの生活への「他者」の侵入、「主体」の価値の肯定、神意識の喪失などによって特徴づけられているこの時代が、新しい宣教精神を必要としていることを謙虚に確認いたしました。すなわち、より福音的で、より自信過剰でない心が必要とされているということです。実際、私たちが他者と分かち合いたいことは、世界観でも古い自分の態度でもなく、死んで復活され、常に聖霊と共におられる御子を通

して、御父が賜物として私たちに与えてくださった新しい人間性です。ロワン・ウィリアムズ大主教は、2012年10月の司教のシノドスでのすばらしい基調講演において、聖エイット・シュタインに言及しながら、この新しい人間性を、「観想的」と呼びました。

この典型的にカルメル会的な香りの漂う表現を取り上げながら、自らを忘れ、自分の満足を絶えず求めることから、自分の考えや計画を他者に押しつけることによって、他者を幸せにしようとする欲求からも自由となった人間性を、黙想の内に、言い表そうとしました。御父へと向かうこの新しい人間性は、すべての人々を、特に貧しい人々、疎外された人々、苦しんでいる人々を、憐れみ深い慈しみの目をもって見る事ができるのです。それは、他者を迎え入れる人間性であり、三位一体の命の核心へと、より深く入って行く道を見出すために、現代の人々と共に、果てしない巡礼に出かける覚悟のある人間性です。

この新しい人間性は、ベニト・デ・マルキ神父によれば、「新しい時代のためにカリスマを解放すること」ことなしには想定できません。すなわち、三位一体的愛を見ることを妨げ、自己の内に閉じこもってしまう、すべての浅薄さや傲慢さや利己主義から、観想的かつ宣教的な諸能力を、解放しなくてはなりません。

より肯定的に述べると、カリスマを解放するとは、兄弟的共同体的生活の三位一体的な関係を、より生き生きと体験することです。それは、福音的な喜びを再発見することであり、御父と御子と聖霊の間に存在する一致と単純さを味わうことです。このようにして、私たちは派遣されたところで、いつでもどこでも、どんな状況にあっても、人々に証しをすることができるのです。

これらすべてにおいて、私たちのみ母である神の御母聖マリアは、いつも私たちと共にいてくださいます。カルメル会にとって聖母は、み言葉に耳を傾け、生ける神を観想する人間性の気高い模範です。聖母は、最高の観想者でありながら、私たちと共に巡礼者となり、一人ひとりに寄り添ってくださるのです。聖母は、母の愛、兄弟の愛をもって、私たちを抱きしめ、私たちの心の中に愛の炎を灯されるのです。貧しさと謙遜、スカプラリオの単純なしるしと共に、聖母は、壊れやすい人間の身体の内にあるこの炎を守り、福音化と宣教のために燃える熱情へと変えられるのです。私たちの生活における聖母の慎ましくかつ説得力ある存在は、スカプラリオを身に着ける人びとが、隣人を愛するために自分自身を献げるように招かれていることを表しています。この意味において、カルメル山の乙女マリアは、「人々への宣教者」と呼ばれてきました（エルサルバドルのオスカー・ロメロ大司教、1980年殉教）

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、私たちは、私たちの召命の恵みとそれに直結する使命への新たな意識をもって、エイルズフォードを去ります。復活された主は、私たちが、遭遇する困難を恐れず、避けがたい試練と起こりうる失敗に落胆しないようにと招いてくださっています。私たちは皆、貧しく取りに足りない者ですが、私たちの内には、世界を征服したより強い力があります。それは、御父の私たちへの愛の力であり、私たちを世界へと送り出し、主が私たちの小道に置かれるすべての人々に心を開かせる、御父のみ言葉と霊の力です。多くの人々は、カルメルファミリーが神の優しさを彼らに示してくれることを期待して、私たちを待っています。

彼らの希望をうち砕かないように、主が私たちを助けてくださいますように。



*****絵本のための小さなおはなし*****

「そっくり返って威張っているハートの絵のお話」

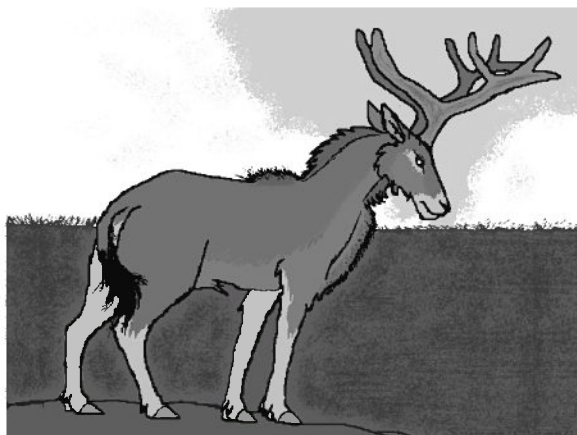
雨にぬれて、一頭の気品のある細長い顔をした、馬のような生き物がたっていました。「ああ、ぼくはシフゾウ。体はロバで、頭は馬で、角は鹿で、蹄は牛。僕ってんで、てんでんばらばらのご勝手めちゃくちゃさ。

ぼくが生まれた時、母さんシフゾウがこういってたっけ。

「坊や、きみはシフゾウに生まれて、長いこと、自分が何のために生まれてきたかわからない長い時期を過ごすのよ。でもその時期が尊いのよ。坊やがシフゾウでいてよかったと母さんは思っているわ」

ぼくを作った神様は、どんな格好をしているんだろうな。きっとどっこいそっくり返っていばっているんだよね。」

「そうともさ」と声が空からしました。「君ってすっかりぼくの傑作さ。宇宙にあるものは何でも誰でも、ぼくの傑作。ぼくの尊い子供たちよ、みんないっしょにてんでに光り輝け。ぼくにかかれば、どんなめちゃくちゃでもけがれでもどんでん返しさ」



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

7月 4日	「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」	福田正範神父
11月14日	「カルメルにおける宣教」	中川博道神父
12月 5日	「神の愚かさ、宣教の愚かさ」	福田正範神父
2014年		
2月20日	「復活の主の第一の使信」	福田正範神父

2. 金曜黙想会 (毎回金曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年

7月12日	「カルメルの霊性・ロスアンデスの聖テレサ」	古川利雅神父
10月 4日	「カルメルの霊性・ラウレンシオ修士」	古川利雅神父
2014年		
1月24日	「カルメルの霊性・聖母マリア」	福田正範神父

3. 奉献生活者の為の黙想会

2013年

7月29日 (月) 18時～	8月 7日 (水)	九里彰神父
8月12日 (月) 18時～	8月21日 (水)	福田正範神父
10月 7日 (月) 18時～	10月12日 (土)	福田正範神父
12月27日 (金) 18時～	2014年1月5日 (日)	古川利雅神父

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

11月 2日 (土) 15時～ 4日 (月・振休) 16時

5. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日 (土) 15時～23日 (月・休) 16時

6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

11月 8日(金)20時～10日(日)16時

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2013年12月24日(火)～25日(水)《講話なし、夕食なし》



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789 ※FAX 番号が変更されました。

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会

ーロス・アンデスの聖テレサー

TERESA OF JESUS 《OF LOSANDES》 (1900-1920)

カルメル会に入会してから、僅か11カ月。
19歳の若さで天に召された南米・チリの
聖女テレサ。聖女の生涯と靈性に触れながら
ゆっくりとした一日を過ごしませんか!?



日時 : 2013年 7月12日 (金) 10時 ~ 16時

指導 : 古川利雅師 (カルメル会 上野毛教会協力司祭)

場所 : カルメル会 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

会費 : ￥3,500- (昼食を含みます)

お申込みは・・・ FAX、メール、ハガキにてお願いいたします。
(尚、お問い合わせは、お電話でも承ります。)

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764
Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





カトリック上野毛教会の保護者

♡ カルメル山の聖母を祝うミサ ♡

～ 岡田大司教様をお迎えして～

【 7月14日(日) 10時30分ミサ 】

司式：岡田大司教様

ミサ後 お祝い会 [信徒会館ホール]

お祝い会後 スカプラリオ授与式 [聖堂]

7時・8時半・18時のミサは通常の主日のミサ

スカプラリオをご希望の方は
当日お申し込みください

♡ カルメル山の聖母の祭日ミサ ♡

【 7月16日(火) 6時30分/10時ミサ
19時30分晩の祈り(歌)とミサ 】

各ミサ後 スカプラリオ授与式 [聖堂]

当日お申し込みください

カトリック上野毛教会
カルメル修道会上野毛修道院



講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

7月19日

10月18日

11月15日

生ける神との出会いを探して

— 靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座 —

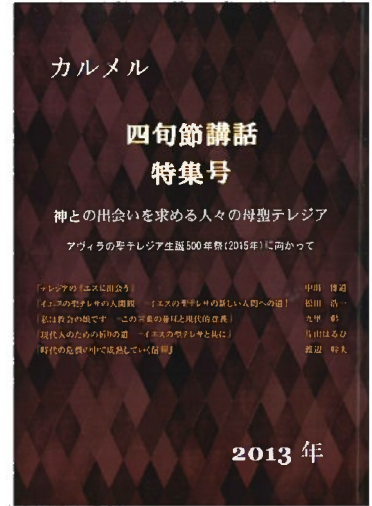
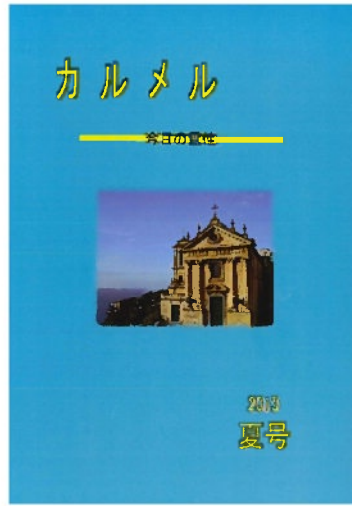
いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

7	7月12日	「信仰を生きるとは？」
8	7月26日	「人間の問題性に関わる神」
9	9月6日	「イエス・キリストに出会う」
10	9月20日	「福音が語るイエス・キリスト」
11	10月11日	「イエス・キリストの自己理解」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

「カルメル」
今日の霊性・夏号
四旬節講話特集号



2013 夏 No.349

カルメル 2013 特集号
「神との出会いを求める人々の母
聖テレジア」

● 目次 ●		● 目次 ●	
テレジアのイエスに出会う	中川 博道	テレジアのイエスに出会う	中川 博道
イエスの聖テレサの人間観	松田 浩一	イエスの聖テレサの人間観	松田 浩一
—— イエスの聖テレサの新しい人間への道		—— イエスの聖テレサの新しい人間への道	
「私は教会の娘です」	九里 彰	「私は教会の娘です」	九里 彰
—— この言葉の意味と現代的意義		—— この言葉の意味と現代的意義	
現代人のための祈りの道	片山はるひ	現代人のための祈りの道	片山はるひ
—— イエスの聖テレサと共に		—— イエスの聖テレサと共に	
時代の危機の中で成熟していく信仰	渡辺幹夫	時代の危機の中で成熟していく信仰	渡辺幹夫
● 今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰 ●		● 今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰 ●	
信仰を生きる (2)	九里 彰	信仰を生きる (2)	九里 彰
—— アビラの聖テレジアの信仰理解		—— アビラの聖テレジアの信仰理解	
信仰年に 聖テレサに導かれて (2)	伊従信子	信仰年に 聖テレサに導かれて (2)	伊従信子
アヴィラの聖テレジアに見る「神の憐れみ」の体験 (2)	九里 彰	アヴィラの聖テレジアに見る「神の憐れみ」の体験 (2)	九里 彰
生活のなかのカルメル	中山真理	生活のなかのカルメル	中山真理
「今日の日のためにだけ」		「今日の日のためにだけ」	
—— 幼きイエスの聖テレズと「時」		—— 幼きイエスの聖テレズと「時」	
人を育む霊性	須沢かおり	人を育む霊性	須沢かおり
—— エディット・シュタインの教育についての考察		—— エディット・シュタインの教育についての考察	
修道院生活 春夏秋冬 (8)	高橋重幸	修道院生活 春夏秋冬 (8)	高橋重幸
キリスト教と革新(確信)	谷口正子	キリスト教と革新(確信)	谷口正子
—— 奥村神父とわたくし (1)		—— 奥村神父とわたくし (1)	
砂漠の修道院に入る (5)	奥村一郎	砂漠の修道院に入る (5)	奥村一郎

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(＋送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】＋送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

9月7日(土)～8日(日) 牧者キリスト 今泉健神父
11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い 九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

9月14日(土) 九里彰神父
11月30日(土) 九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

7月24日(水) 信仰の種 九里彰神父
※ 9月4日(水) キリスト信者の霊的生活のカテキズム 松田浩一神父
※ 10月16日(水) アピラの聖テレジアとイエス 今泉健神父
※ 11月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム 松田浩一神父
12月18日(水) クリスマスを迎える心 今泉健神父

※ → 先月号までの日程掲載(月)に間違いがあり修正しました。ご注意ください。

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日) 松田浩一神父
人間となった神の子への信仰

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(月)～10月1日(火) 伊従信子師

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

11月9日(土)～11月10日(日) 今泉健神父
キリストはあなたを呼んでいる

【一般のためのカルメルの霊性入門】

10月26日(土)～10月27日(日) (午後5時～午後4時) 松田浩一神父
「テレサ的カルメルの霊性 No.1」

奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

8月2日(金)～8月11日(日) 松田浩一神父
8月17日(土)～8月26日(月) 今泉健神父
12月27日(金)～1月5日(日) 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
12月24日(火)～12月25日(水) {講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

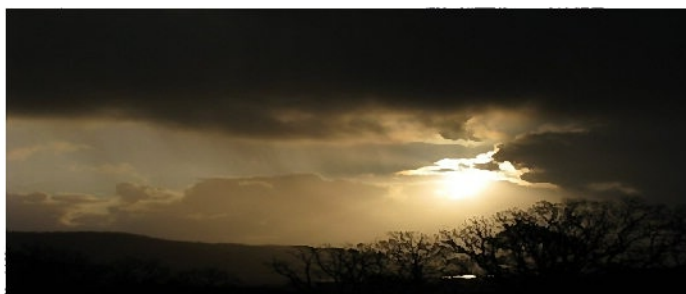
信仰年：聖テレーズの黙想会

テレーズの命日（9月30日）、祝日（10月1日）に
テレーズが信仰のうちに どのように神を探し求めていた
のか ごいっしょに黙想しましょう



時としてわたしの心は
嵐に打ちのめされ、
自分を取り囲む黒い雲以外に
何も存在しないかのように
おもえることもあります。

でも、そこにただ、じっと留まって
信仰の目から
隠されていた見えない光を
見つめ続けることは
大きな幸福なのです。
～テレーズ～



日時： 2013年9月30日（月曜日）5時—10月1日（火曜日）4時

指導： 伊従 信子

場所： カルメル会 聖テレジア宇治修道院（黙想）

611-0022 宇治市木幡御蔵山39-1

持参するもの： 新約聖書、『弱さと神の慈しみ』（サン・パウロ社）

申し込み先： fax 0774-32-7457, 電話 0774-32-7016

e-mail teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

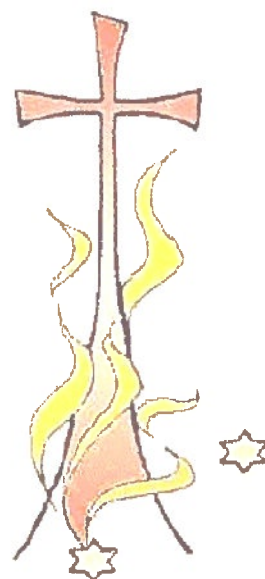
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月8日(金)～9日(土) |
| ③ | | 3月8日(金)～9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月6日(金)～7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月6日(金)～7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一日常修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一日常修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一日常修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

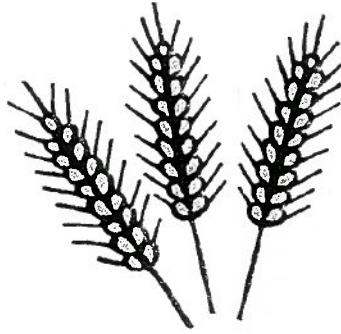
246 207頁 定価525円(税込)

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
フォコラーレ
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072-802-5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

2014年予定

- K1 1/25 (土) -1/31 (金) 東京・小金井・聖霊会
- K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S1 3/30 (日) -4/5 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- K3 6/14 (土) -6/20 (金) 東京・小金井・聖霊会

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ
神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
 キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
 9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
 各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
 「古代と教父時代」(BC 5世紀—AD 6世紀)
 [教父時代]

7/06、7/13、7/27、9/07、9/14

●ミサ

水曜日 17時10分—18時 上智大学内 Kulturlハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社婦りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分—20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日は Kulturlハイム 聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分—12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日は休み。

・水曜日 18時—18時30分 上智大学内 Kulturlハイム1階右、テレジア小聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み

・「通う霊操」8月24日(土)—9月1日(日)18時—20時45分 上智大学内 Kulturlハイム 聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分—16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

7月6日、8月10日、9月7日、10月12日、11月9日、12月7日

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分—16時50分 上智大学内 Kulturlハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

09月28日(土):10時—29日(日)14時(東村山)

11月16日(土):10時—17日(日)14時(上石神井)

2014年

03月08日(土):10時—9日(日)14時(上石神井)

[関西]

10月5日(土)13時30分—6日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分—20時10分

・木曜日 18時—20時30分

上智大学内 Kulturlハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
 3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

8月10日(土)20時30分—17日(土)10時

9月20日(金)20時30分—24日(火)10時

11月1日(金)20時30分—11月4日(月)13時

[宝塚市]

7月30日(火)17時45分—8月5日(月)15時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時—18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室、10月20日(日)、2014年1月25日(土)

●クリスマス

クリスマス会

12月14日(土)16時—20時30分。岐部ホール4階、404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(月)14時—上智大学内 Kulturlハイム 聖堂 (80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座 2013年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座 2013年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

7/05 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
7/12 イエスの譬話— 神の働きを語る
7/19
イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
7/26 イエスは誰か— イエスの自己理解
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
8/02,8/16○休み
8/09
最後の晩餐— 自分を与えるイエス
8/23
イエスの受難— その史実と意図(上智大学内クルトゥルハイム2階)
8/24-9/1●通う霊操(18時-20時45分)
8/30 イエスの死— その救済的意義
9/06 聖書のイエス像— ヨハネの見たイエス
9/13 イエスの復活— 今に生きるイエス
9/20 聖霊— 神の愛に導かれる
9/27 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる
9/28-29●黙想会(東村山)

[倫理的行為]
7/02 自己実現— 責任と自由
7/16 性格の形成— 自己受容と善への憧れ
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
7/30 ○休み
8/06 人間の弱さ— 誘惑と罪
8/20 魂の癒し— 恩寵・心の入れ替え・ゆるし(上智大学内クルトゥルハイム2F)
8/24-9/1 ●通う霊操(18時-20時45分)
[根本的態度]
09/03 有意義に生きる基盤— 信仰と希望
09/17 唯一の掟— 愛による完成
09/28-29 ●黙想会(東村山)
10/01 基本的な徳— 判断力・勇気・節制
10/15 共同存在— 共通善・正義・奉仕
10/29 個人の道— 自己の課題と聖霊の導き
[日常生活]
11/05 対人関係と友愛— 恵みである他者
11/16-17 ●黙想会(上石神井)
11/19 身体と生命— 性と倫理
12/03 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056



いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
7月13日(土) 日常生活の中で神との親しさを生きる
9月14日(土) リジューのテレーズ
10月12日(土) アヴィラの聖テレサ

講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel：077-579-7580 Fax：077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
 - A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
② 8月14日(水)～22日(木) ③ 9月27日(金)～10月5日(土)
④ 12月27日(金)～2014年1月4日(土)
 - B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
⑤ 7月12日(金)～14日(日)
⑥ 11月1日(金)～3日(日) ⑦ 11月29日(金)～12月1日(日)
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhanajesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(月)16:00	Fr ラフونت	女子御受難会修道院 (宝塚)	大倉本子 Tel:078-811-2706
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(月)昼食	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※ Tel/fax 03-5802-3844
霊操とII	8/17(土)17:30- 8/26(月)朝	Fr植栗	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	
日帰り (注)	9/1(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 105号室	若山美知子※
入門 C	9/8(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナ II	9/12(木)17:30- 9/16(月)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院	申込み: Sr 比嘉 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720
サダナ I	9/20(金)17:30- 9/23(月)16:00	Fr植栗 FrA.マルコ	シャルトル聖パウロ会盛岡修道院 (盛岡市) 申込み:伊藤律子 Tel090-4478-0088	
入門 A	10/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナ II	10/10(木)17:30 10/14(月)16:00	Fr ラフونت	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉本子
サダナ I	10/11(金)17:30- 10/14(月)昼食	Fr植栗	熊本・真命山(玉名郡和水町) 申込み:壽賀佳子 Tel:099-282-2289 携帯:080-6400-0610	
サダナ I	10/31(金)17:30- 11/3(日)14:00	Fr ラフونت	三位一体聖体宣教女 東京修道院(東村山市)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り＝サダナ I を終えた方

*サダナ I = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナ II = I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



フォコラーレの夏のつどい マリアポリ

人はみな、かけがえのない存在です。
神様がすべての人を愛しておられるように、
私たちも自分とは違うタイプや考えの人を
受け入れ、大切に作るなら、
新しい人間関係が生まれてくるでしょう。
マリアポリで、そんな経験をしてみませんか。

とき: 2013年 7月13日(土) 12:30受付 13:30開始(昼食は各自済ませておこし下さい)
7月15日(月・祝) 昼食後 解散

ところ: 東照館：〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野210
TEL: 0555(65)8750 FAX: 0555(65)7793

問い合わせ・申し込み

下記の男子または女子フォコラーレセンターまでご連絡いただければ、申し込み書をお送りいたします。

- 男子フォコラーレセンター: 〒168-0071 杉並区高井戸西 1-11-4
TEL: 03(5370)6424 FAX: 03(5370)3055
- 女子フォコラーレセンター: 〒158-0094 世田谷区玉川 4-20-22
TEL: 03(3330)5619,03(3707)4018 FAX: 03(3707)4019
- <http://focolare.world.coocan.jp> (申込書ダウンロード可能)
- Email: tokyofocfem@yahoo.co.jp

参加費: 全額前払いとなります。

	全参加	1泊2日	1日(宿泊なし)
大人	18,000円	12,000円	4,000円
学生	14,500円	10,000円	3,000円
中学生	13,000円	9,000円	2,500円
小学生	12,000円	8,000円	2,300円
幼児	6,500円	4,500円	1,500円

支払い方法と期限

7月3日(水)までに参加費の全額を指定口座にお振り込みください。振込手数料はお客様でご負担ください。現金でのお支払いの場合はフォコラーレセンターまでお願い致します。

指定口座

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店 普通預金 口座番号 0951732

フォコラーレ会 代表者 黒川 真理子

・7月13日(金)午後3時から準備を始めています。お手伝い頂ける方はいらして下さい。
(宿泊費 素泊まり 4,200円)

・プログラムの中では、レクリエーションや自然に親しむひとときもありますので、ご希望の方は歩きやすい靴をご持参下さい。

交通

1.新宿から高速バスで:新宿 → 山中湖 I.C. → 山中湖 → 平野(約140分)

・京王予約センター: 03(5376)2222 ・富士急予約センター: 0555(72)5111

2.新宿から電車で:新宿(JR中央線120分)→大月(富士急行50分)→富士吉田駅(バス35分)→平野

*バス停「平野」より、徒歩5分/駐車場もあります。

CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

7月9日（火）『完徳の道』第34～第35章

9月10日、11月12日、12月10日



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール 14:00～16:00

7月からは「岐部ホール」。12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

7月10日（水）『靈魂の城』第5の住居の第2章

9月11日、11月13日、12月11日

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

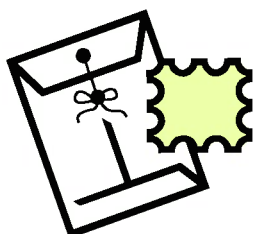
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『靈性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

最近、どういうわけか、人生や日常の出来事をユーモアたっぷりに詠っている川柳が目につく。これは、新聞に掲載されていたサラリーマン川柳の一等賞。

いい夫婦 今ではどうでも いい夫婦

お互いキラキラと輝き、皆から祝福され結婚し、希望にあふれていた新婚時代。子供が生まれ、子育てに追われながらも、仕事に全エネルギーを傾注していた時代。子供たちは独立、自分も退職、ひっそりとした我が家で、静かに余生を過ごす老夫婦の姿が浮かんでくる。次の一句は、シルバー川柳（シルバーシート、シルバーボランティア等の連想から、高齢者のことを詠った川柳）の一つ。

妖精と 言われた妻は 今 妖怪

この詠み人は、間違いなく匿名希望であろう。奥さんに知られたら、命は保証の限りではない。

(P.九里)



***** 8月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊（7月送付無し）となります。
9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「9月号」製本日

8月27日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171